

コニカミノルタの取り組むDX ～ビジネスの進化を目指して～

2020年2月15日
コニカミノルタ株式会社
常務執行役 仲川 幾夫

仲川 幾夫 (Ikuo Nakagawa)

コニカミノルタ株式会社
常務執行役 デジタルワークプレイス事業部・
IT企画部(CIO)・DXブランド推進部管掌



1987年：ミノルタ香港 情報機器部門マネージャー（中国・香港・ベトナム市場担当）

1991年：ミノルタUSA 情報機器部門マネージャー

2001年：ミノルタUSA 情報機器部門副社長

2003年：コニカミノルタ・ビジネスソリューションズUSA上級副社長

2008年：コニカミノルタ・ダンカ・イメージング会長兼CEO

2009年：コニカミノルタ・ホールディングスUSA社長 兼 コニカミノルタビジネスソリューションズUSA上級副社長

2011年：コニカミノルタ・ビジネスソリューションズ中国社長

2014年：コニカミノルタ・ビジネスソリューションズ欧州社長 兼 コニカミノルタ株式会社執行役

2018年：コニカミノルタ株式会社常務執行役

03年8月

経営統合

【コニカ】1873年創業 写真・石版材料事業
【ミノルタ】1928年創業 カメラ事業

13年4月

経営体制再編

傘下7社を吸収合併
「コニカミノルタ株式会社」へ

前中期経営計画
Transform2016 (14-16年度)

06年8月

事業撤退

創業事業
写真フィルム・カメラ事業から撤退



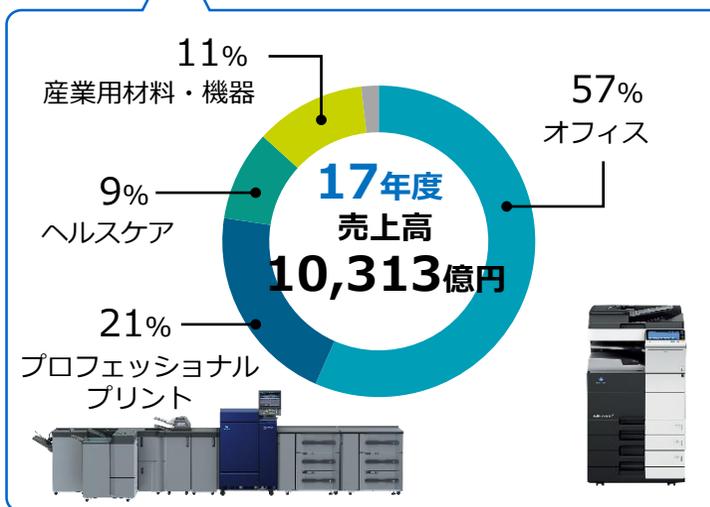
17年度

新中期経営計画



SHINKA 2019

課題提起型デジタルカンパニーへ向けて



オフィス事業

お客様の
ワークフロー改革を
支援する
サービス
を提供



プロフェッショナルプリント事業

デジタル印刷ニーズ
に応える最適な
出力ソリューション
を提供



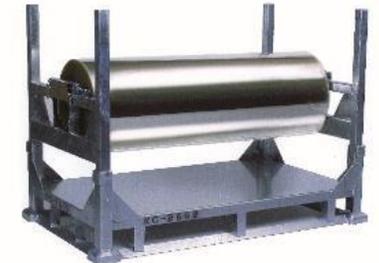
ヘルスケア事業

医療のデジタル化を支え
診断のデジタル化に貢献



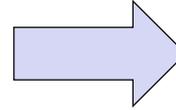
産業用材料・機器事業

光学・材料技術を結集し
モノづくりに革新を

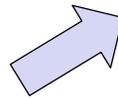
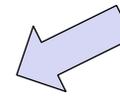
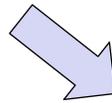


動画投影

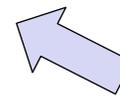
Disruptive Innovation



世の中から消えつつあるもの



since2006

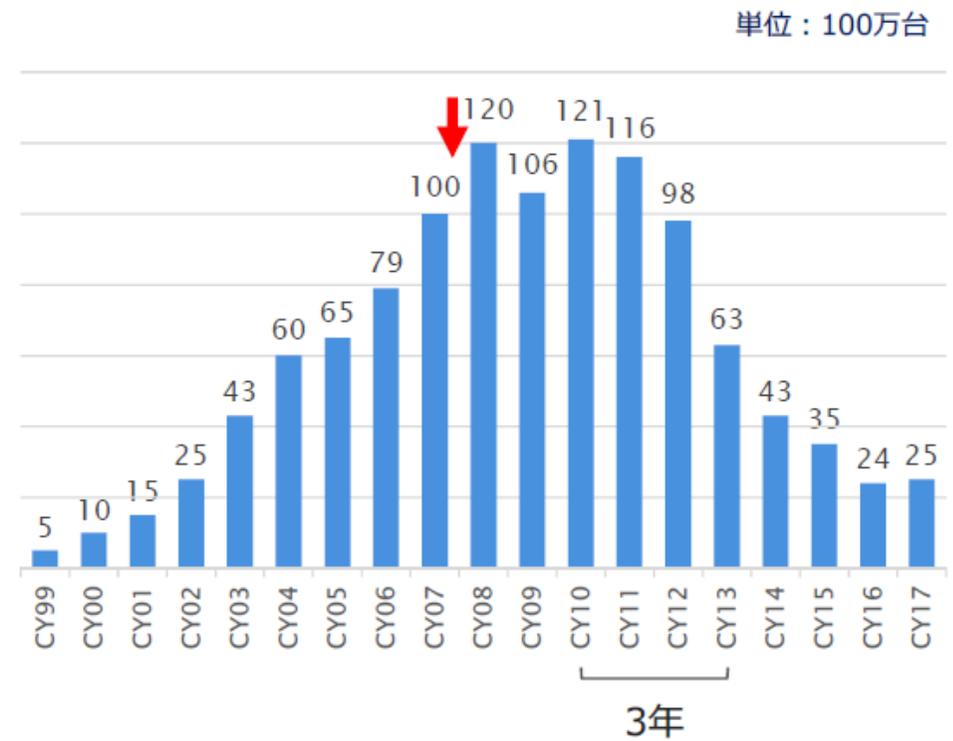


技術革新に伴い、ライフスタイル、価値観やビジネスモデルが大きく変わっていく

カラーフィルムの世界市場規模



デジタルカメラの世界出荷台数



ビジネスモデルの変革 → “Services”

KPI: No. of Records

KPI: No. of Units

- 1980
Music Records

- 2000
CD

2001 -
iTunes, “Services”,
No. of Downloads

2006 -
Spotify, No. of
Subscriptions



- 2000
MFP/Printers “units”

2000 -
Managed Print Services
“pages”

2011 -
MCS/BPS “Services”
Managed IT “Services”

2018 -
Workplace Hub
Edge IoT Data Business

KPI: No. of Subscriptions

KPI: Recurring “Services” Revenue

€€€ “Services” Business Model €€€

※2018年3月31日現在

連結子会社数

164社

セールス/サービス体制

約150カ国

従業員数

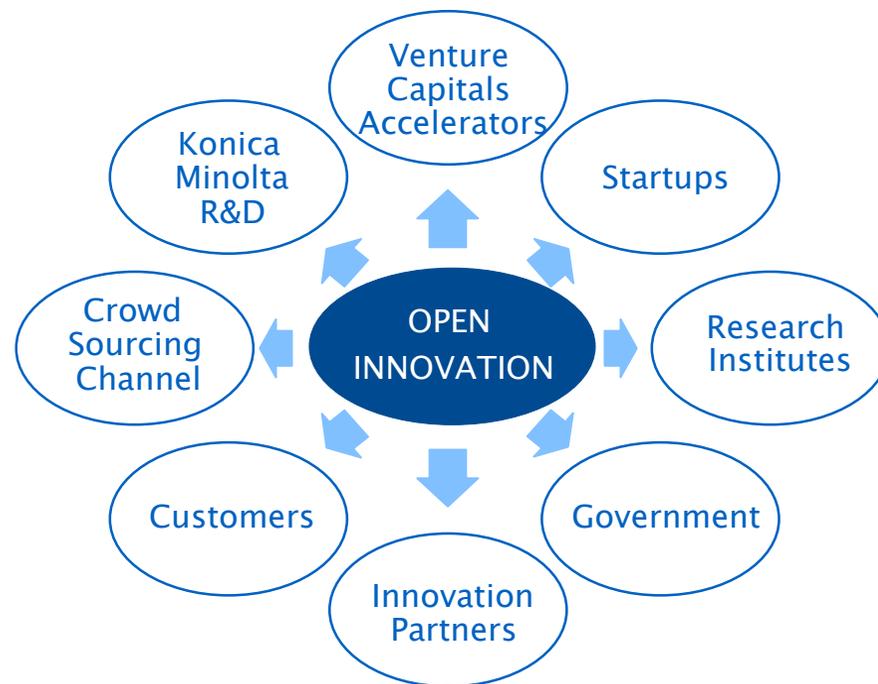
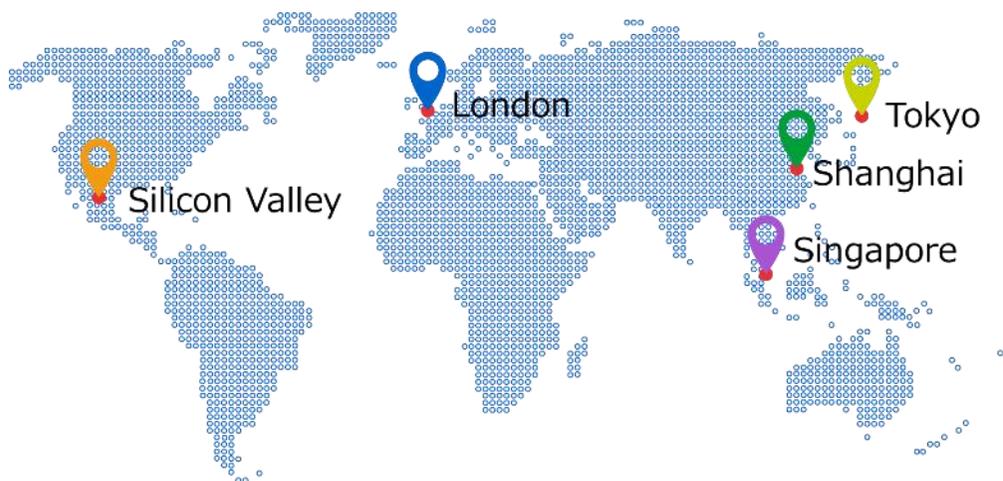
44,000人

顧客企業数

約200万社



- 市場・顧客に密着、非連続にイノベーション創出
- 社外中心に多様な人財登用、新たな企業文化醸成
 - 社内外連携によるアジャイルな事業開発



新規100テーマ



事業化へ

コニカミノルタ中計 : Digital Transformationへの取り組み (Transform2016→Shinka2019)



- インテリジェントネットワークカメラ
- 医療画像プラットフォーム
- 外観検査
- デジタル加飾印刷

買収により獲得

- 欧米にてITサービス企業（約40社）買収
- マーケティングサービス企業買収
- 業態別ワークフローを熟知した人財獲得

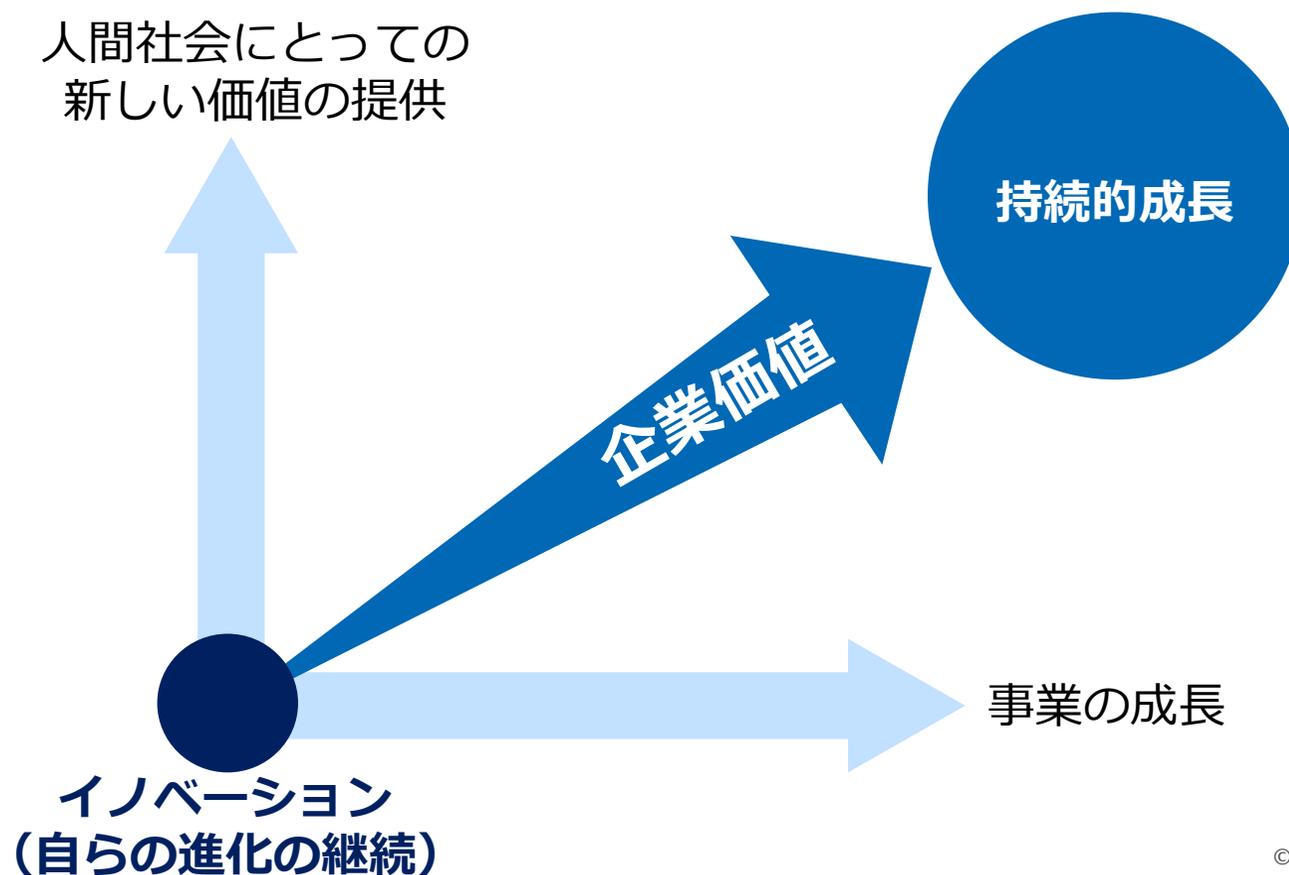
買収によりソリューション提案力及び人財を強化

オープン
イノベーション



- エッジIoTプラットフォーム「Workplace Hub」
- アジャイル開発力
- グローバル・パートナーシップ構築力 (Microsoft, HPE等)

人間社会の発展に寄与する新しい価値を継続的に提供し、
持続的な事業成長を図り、企業価値を高める





2030年の社会課題

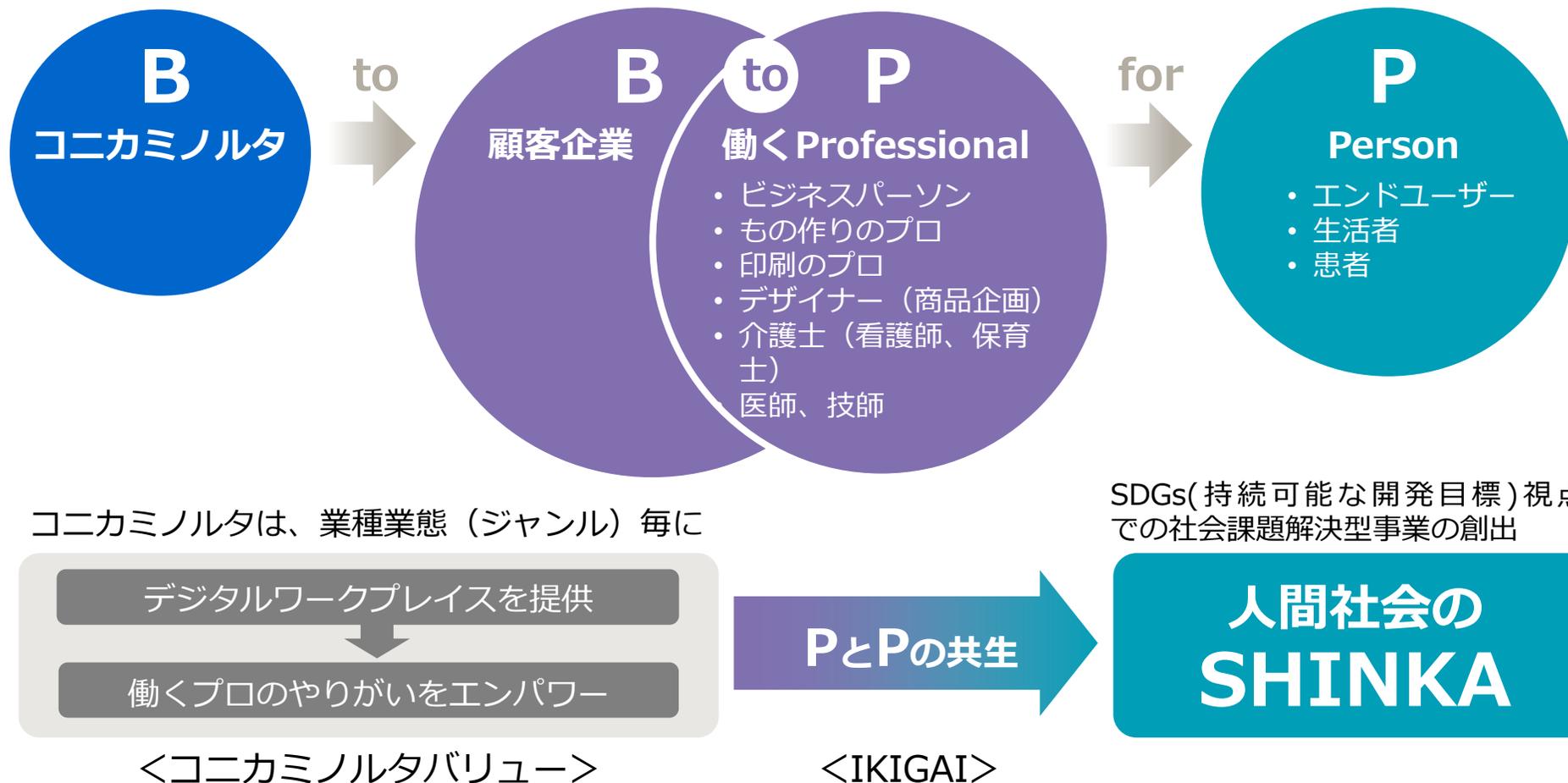
- ✓ 医療・介護需要の増大
- ✓ 労働力不足・ミスマッチ
- ✓ 都市・インフラのセキュリティ不安
- ✓ 資源・エネルギー不足

コニカミノルタ中計：SHINKA 2019 目指す姿 “課題提起型デジタルカンパニー”



- 製品別事業体制・顧客基盤（B2B）

- 全社を挙げて業種業態別お客様企業のトランスフォームを支援
- お客様企業の潜在的課題を先取りして共に解を創出（B2B2PforP）

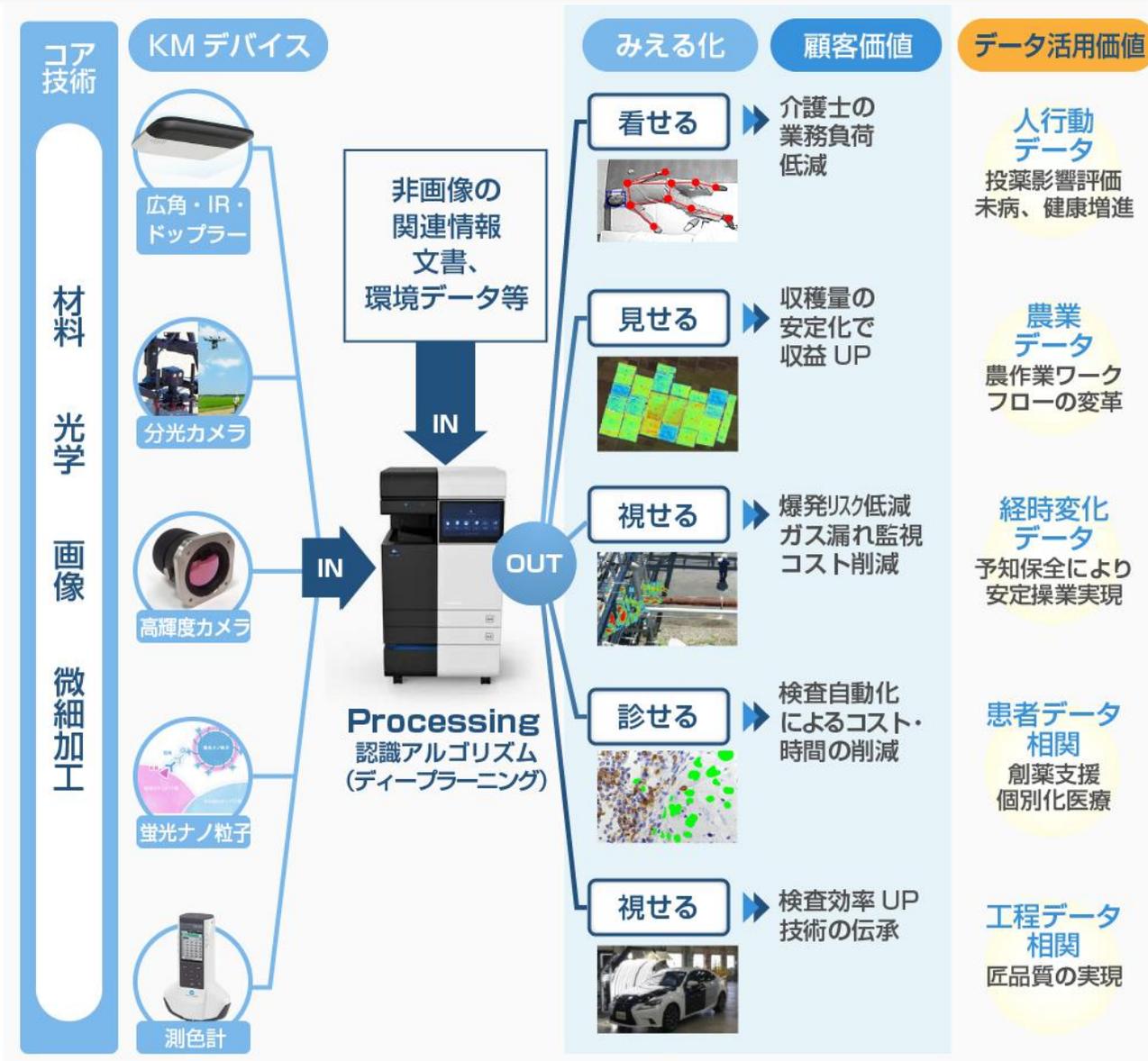


社会課題	コニカミノルタの提供価値と事業例
<p>医療・介護需要の増大</p> 	<p>個に寄り添い、持続可能な医療・介護の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレシジョン・メディシン（個別化医療） ・ ケアサポートソリューション（介護） ・ 僻地での遠隔診断サービス
<p>労働力不足・ミスマッチ</p> 	<p>生産性・創造性向上につながるワークフローの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エッジIoTプラットフォーム Workplace Hub ・ デジタルマニュファクチャリング
<p>資源・エネルギー不足</p> 	<p>廃棄ロス、輸送負荷を軽減するサプライチェーン実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンデマンド印刷・テキスタイル ・ サプライチェーンのデジタル化
<p>都市・インフラのセキュリティ不安</p> 	<p>安心安全の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 状態監視ソリューション （ガス漏れ/離岸流の検知、橋梁の非破壊検査、自動運転支援）





お客様の“みたい”に答えることで人間社会の進化のための 新たな価値を提供



画像処理の技術と
デジタル技術を
駆使して、
ビジネスの現場
(エッジ) のワーク
フロー変革を支援

CPSプラットフォームを使った歩き方の分析

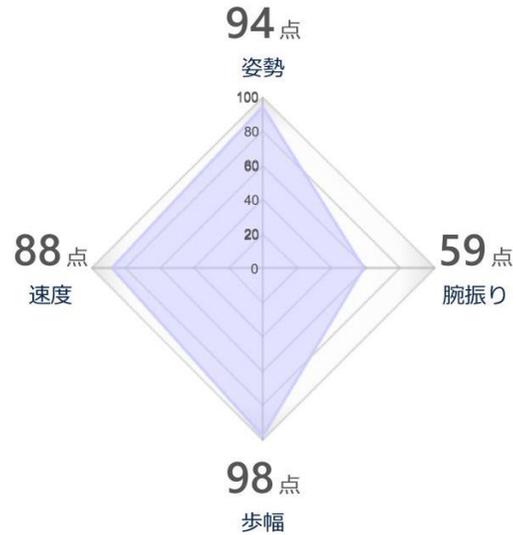
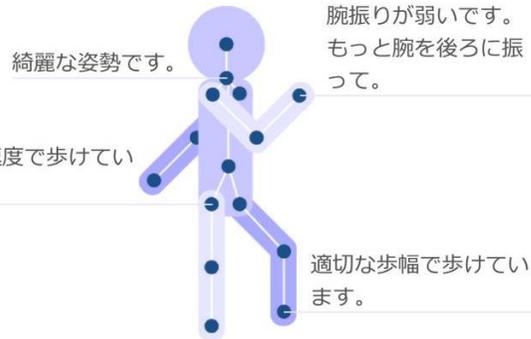


歩行の上級者

ランキング: 31 / 212位

総合点: 339点

測定日時: 2018/12/06 14:38



- 総合点: 394点
 測定日時: 2018/12/06 16:24
- 総合点: 387点
 測定日時: 2018/12/06 16:54
- 総合点: 387点
 測定日時: 2018/12/06 15:12
- 総合点: 386点
 測定日時: 2018/12/06 16:32
- 総合点: 383点
 測定日時: 2018/12/06 16:45

■ システム構成図 ■



ソリューション事例① : Intelligent Connected Workplace



KONICA MINOLTA

社会課題

- 大企業と中小企業のDigital格差の解消
- 労働生産性の低下、人手不足
- IT管理業務の負担

改善

- ITの包括的な機能をパッケージで提供
- セキュリティの強化
- 社内外の連携を強化

提供価値

- 生産性の向上によるコア業務への集中
- 創造性が高い業務の増加
- 多様で効率的な働き方



“Intelligent Connected Workplace”実現へのステップ

顧客の働き方の成熟度に合わせたサービスを提供、価値創造を支援

デジタルワークプレイスを
守るセキュリティー



成熟度 Lv.1

プロセスがITでつながり、
デジタル化がはじまり、
「いつでも」働くことができる

成熟度 Lv.0

紙や帳票に縛られている
働く場に縛られている



成熟度 Lv.2

現場同士がデジタルでつながり、
「どこでも」働くことができる

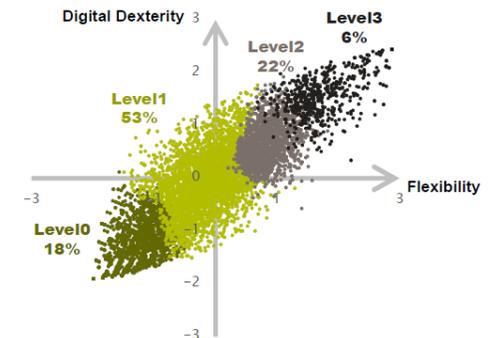


**Intelligent
Connected
Workplace**

成熟度 Lv.3

必要な人やナレッジがつながり、
いつでもどこでもだれとでも、
価値創造できる

「働き方改革」成熟度の1万社の分布



出典 : KM自主企画調査「働き方・ワークスタイルに関する調査」
対象者 : 従業員数100人以上の企業に勤める正社員オフィスワーカー

一歩先の「働き方」を、データに基づき提案

デジタルワークプレイスを
守るセキュリティ



紙に縛られず
いつでも働ける環境

- 紙削減、業務プロセス最適化、自動化
- All in one IT



成熟度 Lv.1

プロセスがITでつながり、
デジタル化がはじまり、
「いつでも」働くことができる

成熟度Lv.0

紙や帳票に縛られている
働く場に縛られている

どこでも働ける環境

- オフィス空間デザイン
- モバイルITインフラ
- データ分析サービス



成熟度 Lv.2

現場同士がデジタルでつながり、
「どこでも」働くことができる

だれとでも働くことができる環境

- 社内外コラボレーション
- ナレッジ・マネジメント
- 意思決定支援

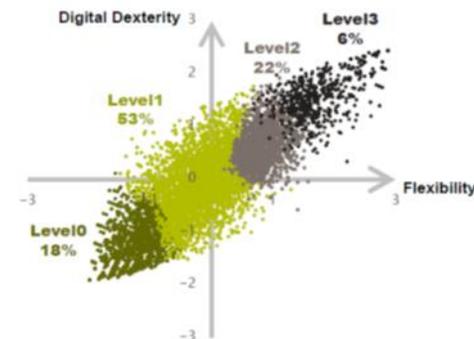


**Intelligent
Connected
Workplace**

成熟度 Lv.3

必要な人やナレッジがつながり、
いつでもどこでもだれとでも、
価値創造できる

「働き方改革」成熟度の1万社の分布



出典 : KPMG日本法人調査「職場・ワークスタイルに関する調査」
対象数 : 従業員数100人以上の企業に勤務する正社員・オフィスワーカー

社会課題

- 高齢化社会
- 介護スタッフの不足
- 介護業務の増加
- 介護の質低下

改善

- ワークフローの変革
- 業務負荷の低減
- 業務の効率化

提供価値

- 働き方の改善
- 高齢者の自立
- 介護者の働きがい
- 介護サービスの品質向上

01 状況を「見て駆けつけ」



02 呼吸による体動異常通知で「安否確認」



03 転倒・転落時の「エビデンス」



04 その場で「ケア記録作成」



05 即時・確実な「情報共有」



06 入居者様の自立を促す「お声がけ」



社会課題

- プラントの老朽化
- ガス漏れ事故
- 火災
- 熟練保全員の減少

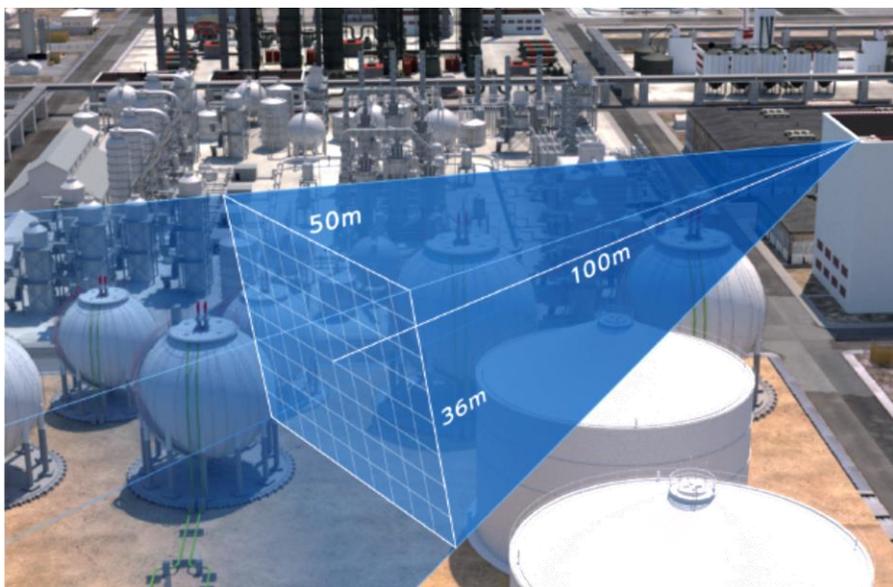
改善

- プラントを常時監視
- 漏洩箇所やガスの流れを“見える”化

提供価値

- 早期の異常発見
- 早期の対応
- 誰でも保全が可能に

カメラによる広域俯瞰

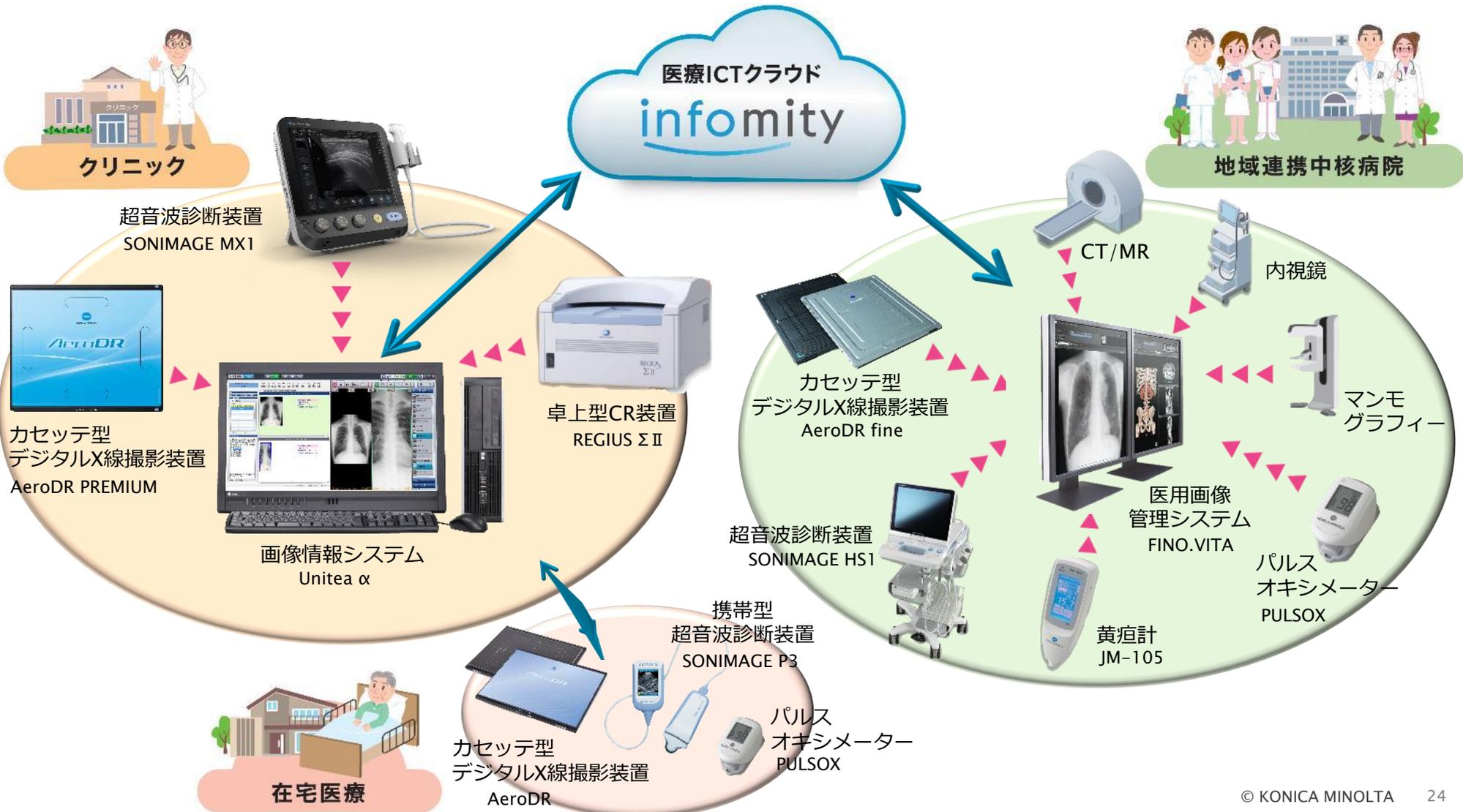


ガス漏えいの「見える化」

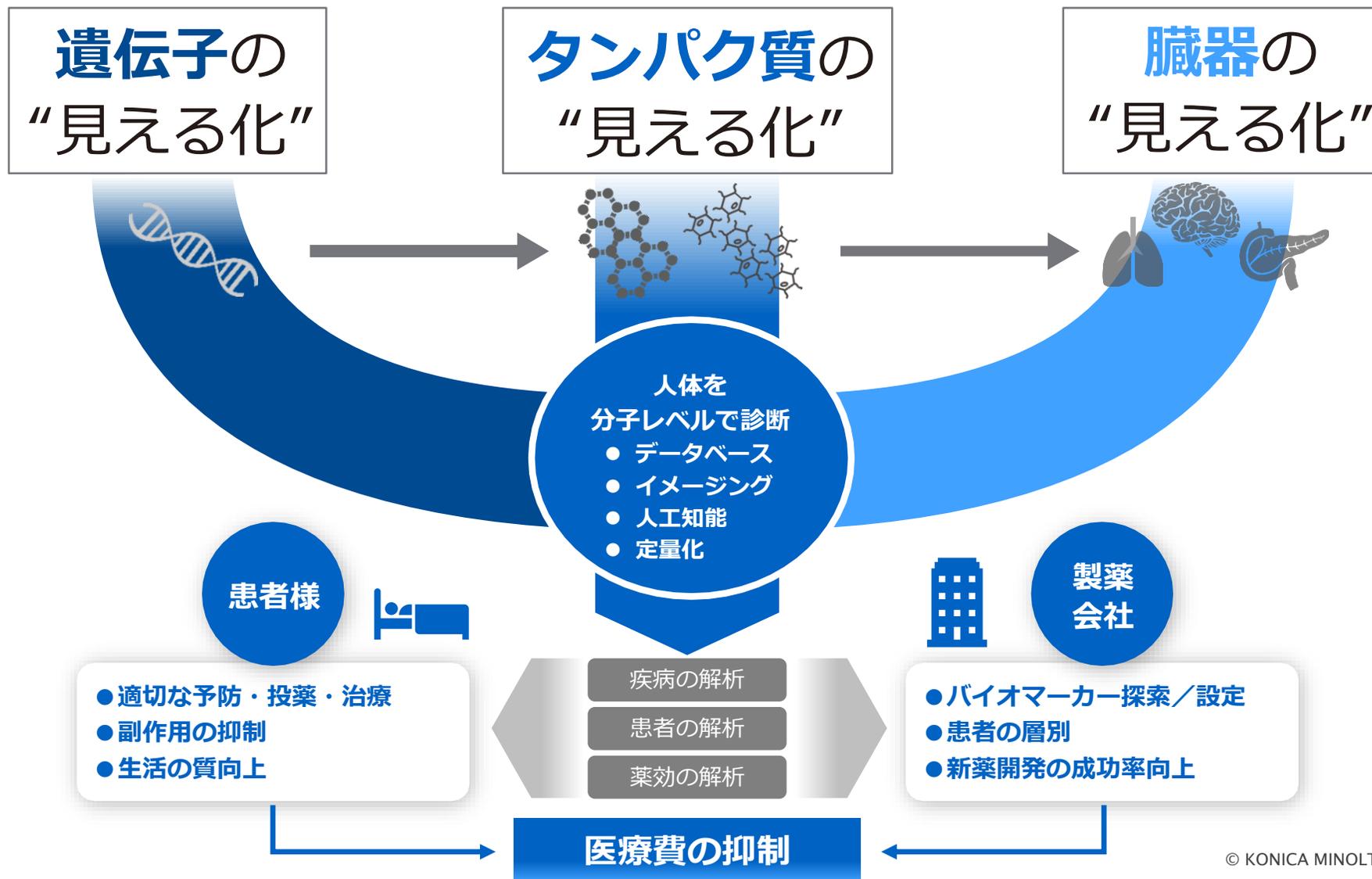


ソリューション事例④：ヘルスケア事業

医療のデジタル化・ネットワーク化を支え、診断サービスの向上に寄与します。



“見える化”技術を駆使し、治療や創薬、医療費抑制に貢献します。



CIOとしてのVision

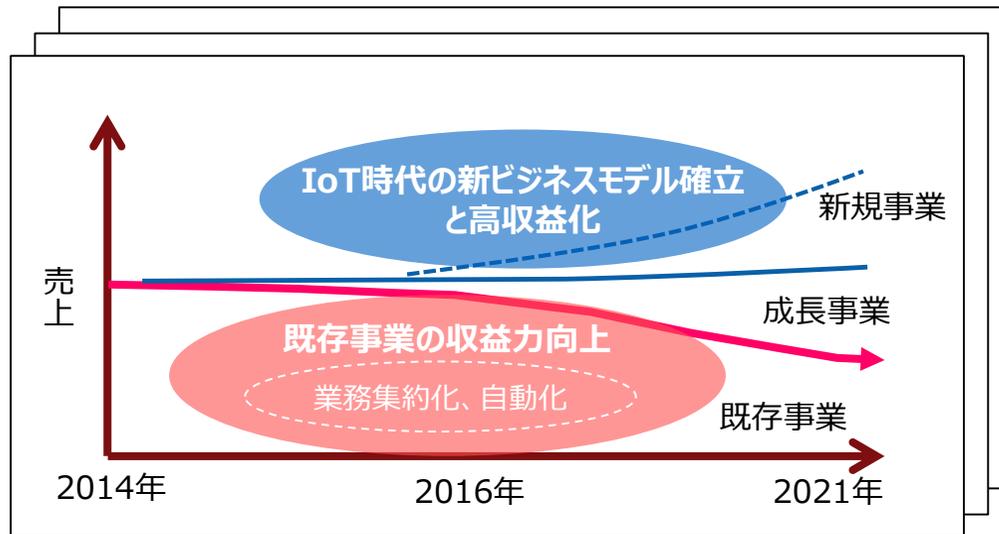
- 従業員体験(EX)の改善と生産性の向上
 - ✓ 社内における“Intelligent Connected Workplace”の実現に向けた社内実践を通じて、従業員体験を改善し、働く場所や時間にとらわれない働き方の提供とコラボレーションを促進。
- コニカミノルタグループのDXを推進し、事業の持続的な成長に貢献
 - ✓ DX事業のビジネスモデルをサポート、ITセキュリティや顧客情報保護を担保しながら、顧客データを活用し、顧客体験(CX)を向上させる。

Digital Workplace事業としてのVision

- “Indispensable Strategic Partner”として、意思決定プロセスを含むミッションクリティカルなワークフローを運用することに対してお客様企業をサポート
- お客様企業に“Workplace of the future”に対する知見と価値を提供し、ワークフローの生産性及び創造性の向上、事業の成長に対する支援を提供
- 顧客及びビジネスパートナー企業に対してエコシステム及びサポートプログラムを提供することで、ビジネスのプラットフォームを提供

既存事業の収益力向上、IoT時代の新ビジネスモデル確立と高収益化、事業横断的取り組みである“Oneコニカミノルタ”に対応した経営基盤を確立することが求められている

事業 (One コニカミノルタ)



働き方改革

新事業・グローバル・Oneコニカミノルタに対応した経営基盤

グローバルIT

支援

事業の変革を支えるIT基盤、業務支援、事業への貢献

IoT時代の新ビジネスモデルを支える
“事業変革を支えるIT基盤の強化・確立”

事業ITを支える全社的基盤整備が必要不可欠

生産性向上、ダイバーシティを実現する
“IT活用による多様な働き方への対応”

働き方を変革し、労働生産性を高め、人財力を最大限引き出す

顧客接点での直接貢献
“社内実践のビジネス展開”

自社実践を顧客提供価値として、ビジネスに貢献

グループ全機能間接業務を効率化する
“業務の自動化”

KMグループの経営と業務運営を効率的かつスピーディーに行えるようIT基盤を整備し、グローバル、リジョナル、ナショナル、個社の各層において把握すべき経営情報が定義、可視化

グローバル化、事業変化に対応した
“経営情報可視化 (経営管理・業務支援)”

オペレーションの標準化・自動化によるコスト削減が不可欠

事業のトランスフォーメーションに貢献するITとしての重点課題と中計テーマ（攻めのIT及び守りのIT）

ITの取り組むべき重点課題

IoT時代の新ビジネスモデルを支える
“事業変革を支えるIT基盤の強化・確立”

生産性向上、ダイバーシティを実現する
“IT活用による多様な働き方への対応”

顧客接点での直接貢献
“社内実践のビジネス展開”

継続的なセキュリティ対策
“IoT時代のセキュリティ対策”

グローバル化、事業変化に対応した
“経営情報可視化（経営管理・業務支援）”

新ビジネスモデルをサポートするためのIT投資枠確保

IT中計テーマ

経営・事業に貢献するIT（“攻めのIT”）

事業変革を支えるIT基盤整備

働き方改革の実現、サポート

事業と連携したIT人財強化と
Global Bimodal IT体制の展開

IoT・製品サービスを含めた
セキュリティ対策

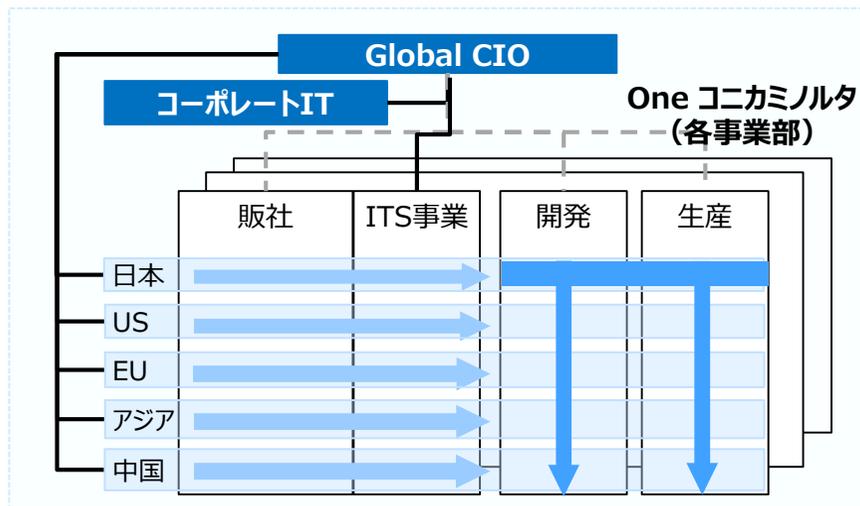
タイムリーな業績管理指標
の把握・分析・示唆

組織的ITコストコントロール

グループ・グローバル共通IT基盤（“守りのIT”）

グローバル同業種企業の企業概要とIT組織構造を参考に、
日本企業である強みを活かしたコニカミノルタのGlobal IT組織構造を検討し、
「リージョン・機能軸での役割分担型」を目指す方向でGlobal IT組織を設計

グローバルIT組織の基本構造



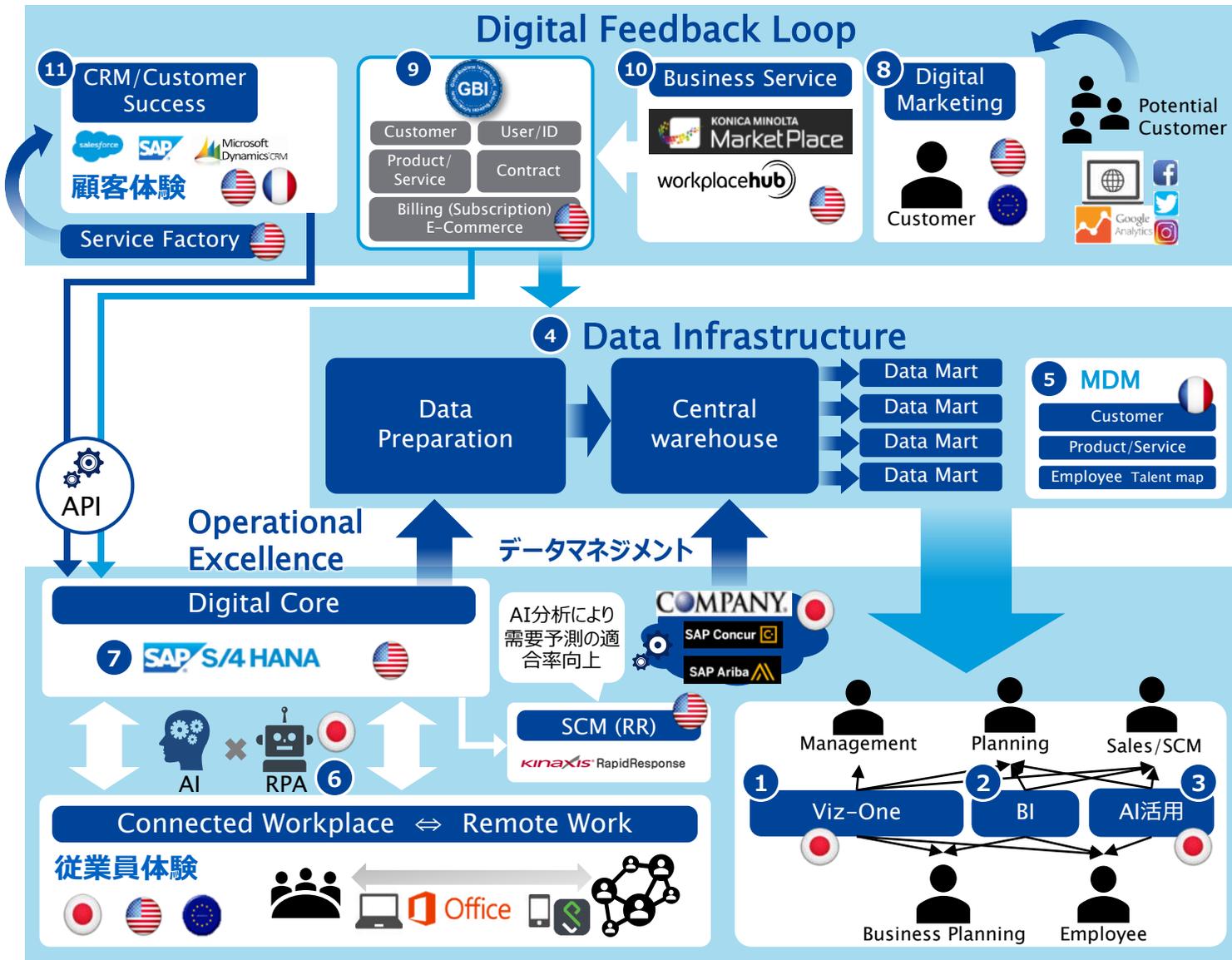
【リージョン・機能軸での役割分担型】

- ✓ 機能ごとにリージョン最適化ポリシーを定め、
機能・リージョンでの統合を推進
(販売・サービスはリージョンでの最適化、
開発・生産は本社機能本部からガバナンス)
- ✓ M&Aによって獲得したITサービス事業会社
(欧米40社以上) をBimodal IT組織
としても活用 (Mode 2)

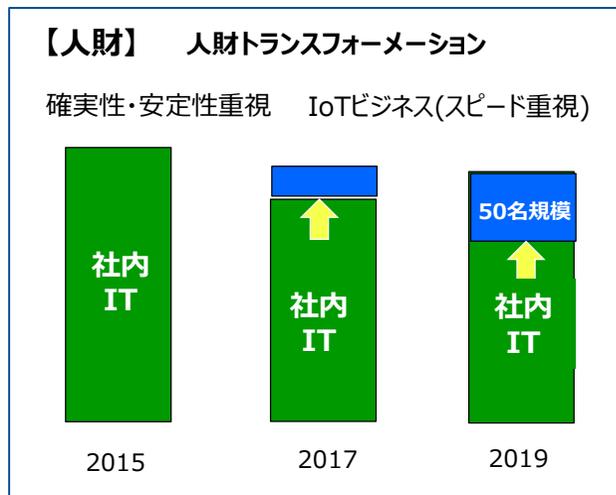
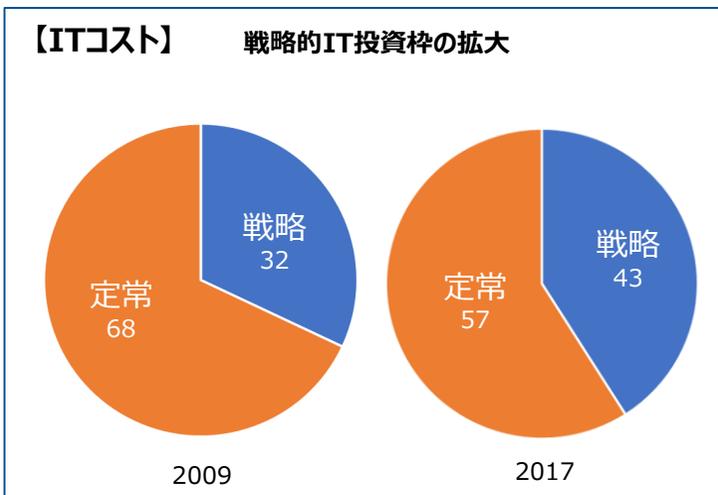
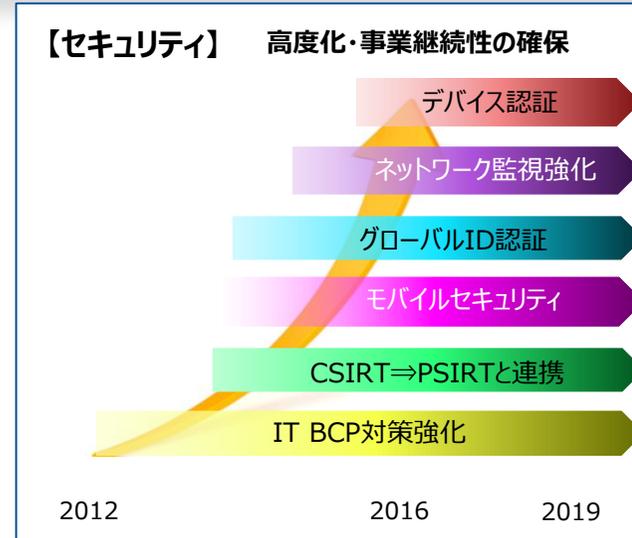
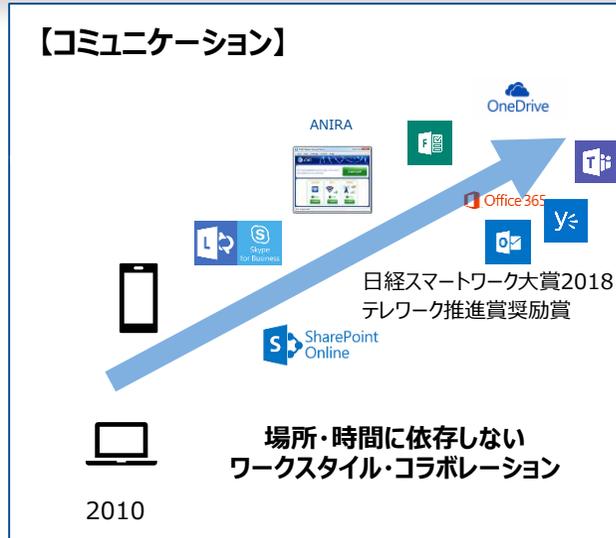
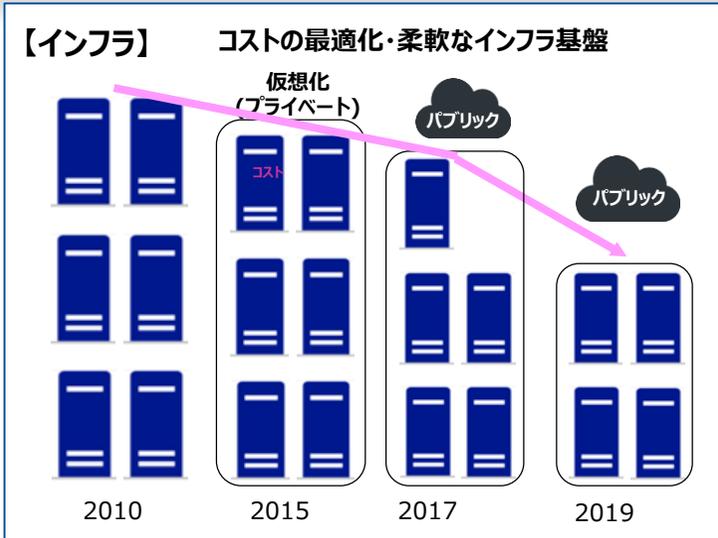
経営・オペレーション効率化を支えるEnterprise DX

経営に必要なデジタル情報を取得する、入力する、蓄積する、活用する仕組みをグローバルに構築する

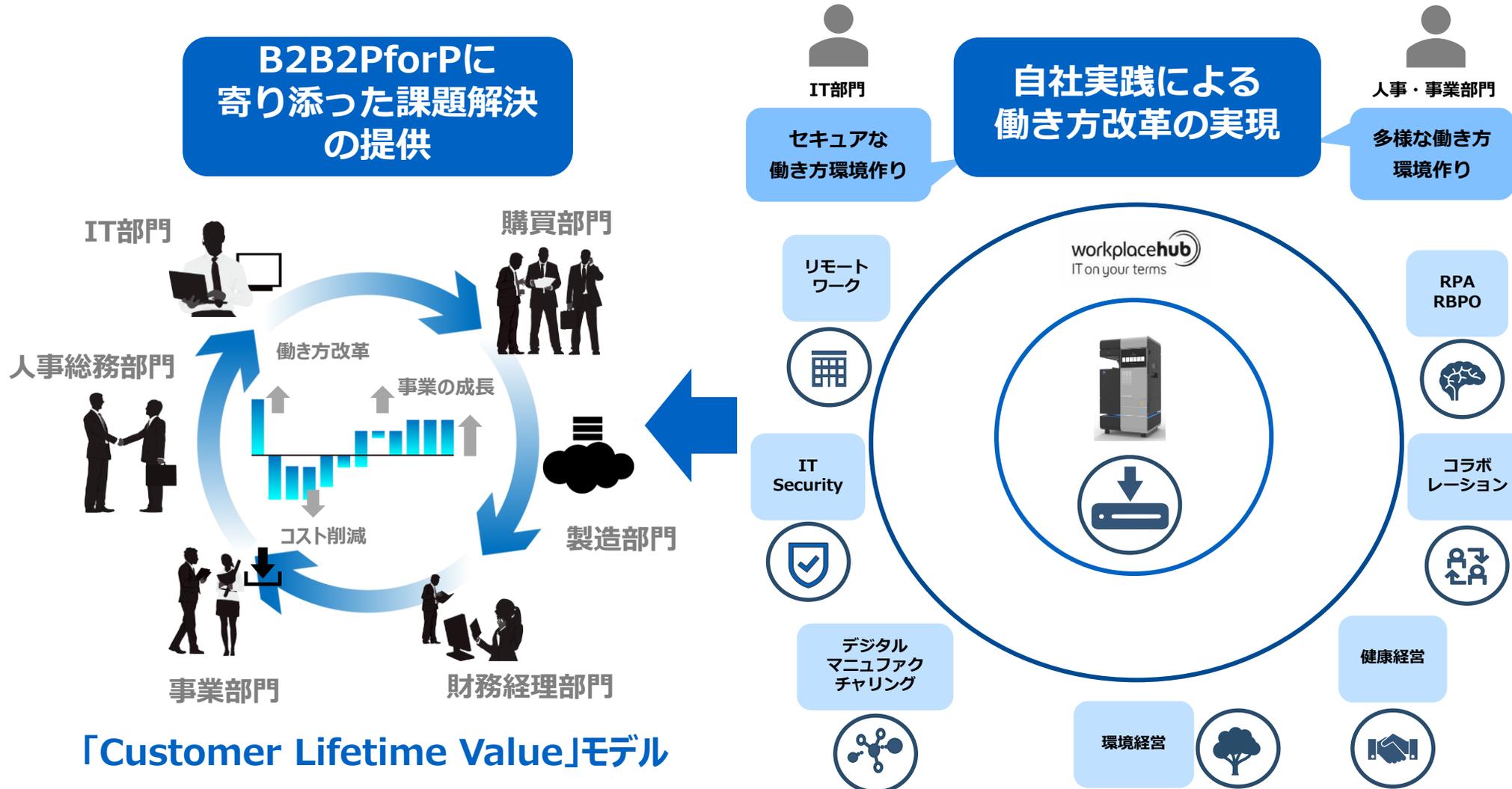
Digital Feedback Loop



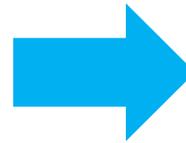
- 1 Viz-One : 経営情報を一元的に「見える化」
- 2 BI : 膨大なデータを加工、分析し意思決定につなげる
- 3 AI活用 : クラウドベースの管理会計用のプラットフォーム。Web入力によりグローバルで同時に計画をすり合わせ。データをAI分析し、先読み精度向上、リアルタイムアクションへ。
- 4 Data Infrastructure : 経営及び事業に必要なデータを活用できる形で一元的に蓄積
- 5 MDM : データ同士をつなげて分析、活用できるように共通のコードにて橋渡し
- 6 RPA : 社内業務のデジタル化による生産性向上・事業化により顧客の課題解決に貢献する
- 7 SAP : S/4 HANA導入により実績収集の効率向上、意思決定のスピードアップ、業務の標準化。新規サービスビジネスへの対応
- 8 Digital Marketing : CRMなどの顧客情報を分析しマーケティングに活用
- 9 GBI : Global Business Infrastructure、顧客とKMIをつなぐITインフラをグローバルで一整備。SAP + Business Service連携でBilling
- 10 Business Service : アプリケーションの販売、展開の仕組み
- 11 CRM : 顧客情報を一元的に管理



お客様に寄り添ってお客様の従業員やお客様の抱える課題に対してソリューションを提供



働かせ方改革



働き方改革

- ✓ 長時間労働の是正・残業の削減
- ✓ 正規vs非正規
- ✓ 単線的なキャリアパスの是正
- ✓ 産業医・産業保健機能の強化

- ✓ 生産性の向上
- ✓ 創造性の向上
- ✓ 人財の獲得と育成
- ✓ 多様性の尊重
- ✓ 従業員のEngagement強化
- ✓ 事業の持続的な成長への貢献

コニカミノルタグループ社内実践活動（全社）：働き方改革

開始時期	名称（場所）		概要
2012		丸の内2丁目 舞台化オフィス プロジェクト	本社 部門の働き方 働く場所の改革 
2013		SWI+CH (八王子)	開発 部門の働き方 社内外コラボレーションの改革 
2014		働き方変革 プロジェクト (浜松町)	販社 部門の働き方の改革 + 自社実践→事業化 
2015		ワークスタイル変革 プロジェクト (全社)	ワークプレイスづくりには関わらない 全社 共通テーマによる働き方の改革
2018		協奏の杜プロジェクト (瑞穂)	開発 + 生産 の垣根を超えた 開生連携と働き方の改革 

社内実践活動（オフィス）： “丸の内2丁目 舞台化オフィス”プロジェクト



「丸の内2丁目 舞台化オフィス」

会社にとって

様々なお客様との
交流を深め、ビジネスを
創出する「舞台」

お客様にとって

コニカミノルタが
提案する
新しいワークスタイルを
体感する「舞台」

社員にとって

ダイナミックで
創造的な働き方の
実践の「舞台」

クロスファンクショナルなプロジェクト体制
プロジェクトメンバーはIT部門を始めとして新事業
企画部門など広範囲な部門から参画

移転で終了ではない！施策推進組織の発足
オフィス移転してからがスタート！
6つのタスクフォースチームが発足

KPIの設定、成果の見える化
戦略マップを用いてKPIを設定、効果が見える化し、
継続的な改善活動を実行

地道な周知活動
親しみやすい新聞形式でワークスタイル変革の進捗
状況を共有する「丸の内2丁目通信」を発刊、情報
周知だけでなく、考え方の理解・想いを共有化

変革の「自分ごと化」
各部署から参加し、プログラムのワークショップを
開催、プロジェクトメンバーがこれまで検討して
きたプロセスを追体験することで、ワークショップ
参加者も変革を自分ごと化

従業員による『自治会』発足
ワークショップに参加したメンバーを中心に、
オフィスを維持運営する定常組織を発足し、働き方
変革に繋がるスキルアップにも取組み

社内実践活動： 浜松町(コニカミノルタジャパン) 働き方変革プロジェクト

「いつでも、どこでも、だれでも働ける環境づくり」をするために、
コニカミノルタジャパンは様々な取り組みを継続して実践



2013年
発足

- 働き方変革プロジェクト発足

2014年
社内環境整備
(本社オフィス移転)

- フリーアドレス導入
- ICTインフラ整備
- Liveオフィスの実践

2015年
社外環境整備

- サテライトオフィス拡充
- 営業職・技術職の直行直帰
- 外勤者にフレックス制度適用

2016年
保管文書ゼロ化
全社運用開始

- 保管文書ゼロ化の全社運用開始
- テレワークの全社トライアル実施
- 全社員にフレックス制度適用

2017年
テレワーク
全社運用開始

- テレワーク推進賞「奨励賞」受賞

2018年
「いいじかん設計」
のご支援



コニカミノルタグループは、働き方改革に関して
以下のような表彰や外部評価を頂いております。

NIKKEI
Smart Work

大賞

「日経Smart Work大賞2018大賞」を受賞
(コニカミノルタ株式会社)



総務省
「テレワーク先駆者百選」
に選出



厚生労働大臣「えるぼし」
最高段階認定
(コニカミノルタ株式会社)



第17回テレワーク推進賞
「奨励賞」を受賞

いいじかん設計とは

弊社が2013年より自社実践を行ってきた経験から、働く時間を削るだけでなく、会社と社員に最適な「いいじかん」を増やすことにも焦点を当てる。コニカミノルタジャパンの新しい働き方改革の考え方です。

いいじかん
設計

DESIGN YOUR TIME!

いいじかんを「設計」すること／いいじかんが生まれる「仕組み」を作ること

働く人の時間は、
コツコツ仕事をこなす「作業じかん」
アイデアを生み出す「創造じかん」
休み、育み、学び、視野をひろげる「自分じかん」
の3つに分けられる！



作業じかん



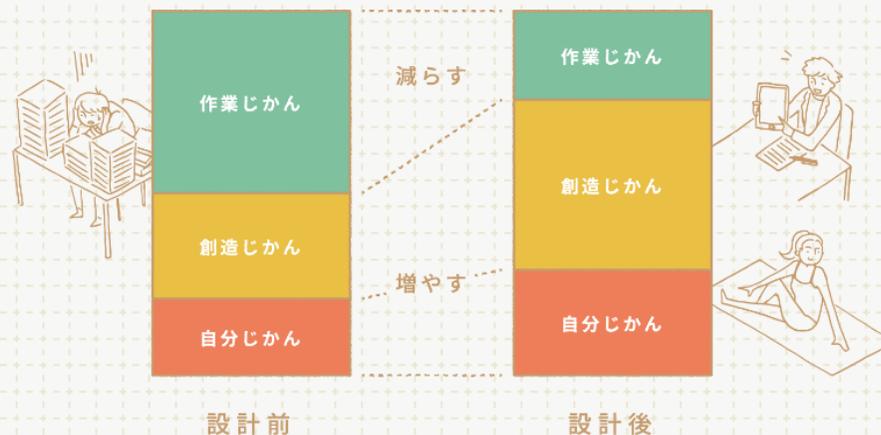
創造じかん



自分じかん



いいじかん設計では、作業じかんを削った分、
創造じかん/自分じかんを増やすまでを設計する！



構想理念

多様性、創造性にあふれ生産性が向上する働き方を提供する場

現場実践知リーダ育成

協創の杜：開生の若手中堅にて決定

コンセプト

もり
協創の杜
All Floor One

目的

- ・人材育成、開発力/生産力強化
 - = 開発：技術者として生産現場の視点も含めた設計スキル（現場力）の向上
 - 生産：開発・設計視点を有する生産技術者の育成
- ・開発/生産のバケツリレーの排除、「自分事」への風土・意識改革
- ・開生による新規ものづくり手法の開発・実用化（KM流インダストリー4.0の実現）



ジェネラルゾーン

プロジェクトゾーン

協創(セッション)ゾーン

テストルーム

デザイン・イン
ルーム



360度カメラと大画面モニタにより
遠隔オフィスを常時表示

【実現したい働き方改革】

- ◆ 知恵、知識の結集／暗黙知の形式化
- ◆ 人脈形成／遠隔地との多様なコラボレーション
- ◆ グローバルコミュニケーション／バーチャルワンフロア
- ◆ 創造的業務比率向上
- ◆ マルチスキル人財育成／ダイバーシティ推進／エンゲージメント強化

IoT関連技術(自動化/ICT/AI等)をグローバルで生産現場の人財が消化/活用し、現場力に磨きをかけ、顧客価値に繋がる生産プロセスに進化させる

データ生成 ▶ 自動化設備の導入

加工設備 | 計測器 | 倉庫 | 作業者

直接作業 (モノ)

汎用ロボット (自動機) の活用
 人ができる作業はロボットへ
 ◆汎用機にすることで、償却費圧縮◆

省人化 | データ入手性向上



収集 ▶ ICTツールの活用

リアルタイム収集 | 大量処理 | 見える化

間接作業 (コト)

分析 ▶ 分析ツールの活用

どの様な分析手段 最適解への導き

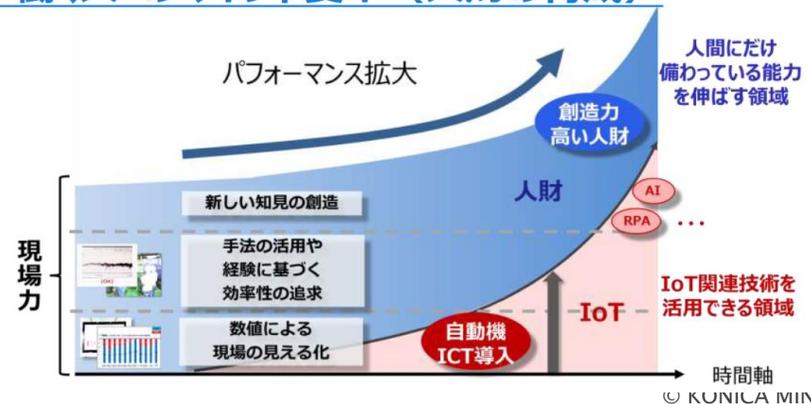
将来的には**Cognitive / AI**技術を活用

ウェアラブルデバイスを活用した工場変革 @マレーシア



Industry 4.0の本家であるドイツにデジタルマニュファクチャリング事業の拠点を立ち上げ、ドイツ発信のサービス事業開発を開始

“働く人”のマインド変革 (人財の育成)



更なる業務効率向上に向け、様々な先進ソリューションを試行し、サービス事業化も推進

Office 365/Teamsの活用

オフィスにおける業務を活用シーンで整理、Office 365の各種ツール(Teams, Yammer, Sharepoint, One Driveなど)をシーン(カジュアル・フォーマル)やグループ(大人数/オープン・少人数/クローズド)に応じて使い分け場所・時間にとらわれない働き方を支援

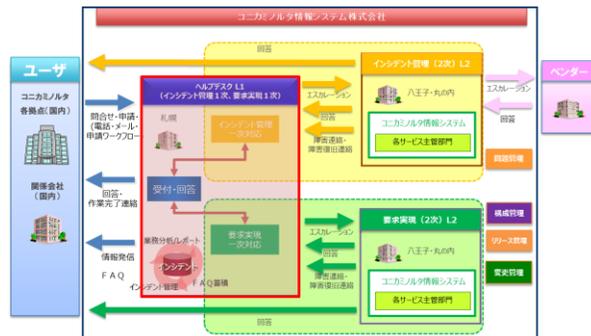
RPA・RBPO

財務・経理、経営管理、生産管理を始めとした業務や事業において、RPAによる業務効率化を実施
POCで得た知見を活かし、以下のサービスをIT部門が社内に向けてサービス提供し、事業としてRBPOも推進

- RPA基盤の提供
- 社内のRPA実践によるノウハウの提供
- 利活用推進のための教育の実施

チャットボット

国内の運用業務（サービスデスク）において品質平準化、自動化（運用効率化）を目的にチャットボットを導入



位置検知及びゾーニング



フリーアドレス化に伴い、誰がどこにいるか分からなくなる課題を解決する位置検知、生産性向上のためのゾーニングによる働き方改革支援

“RPA”の自立推進は着実に定着へ！

DXを実現するためにコニカミノルタが考える次の一手



Digital Workforce
としての取り扱い



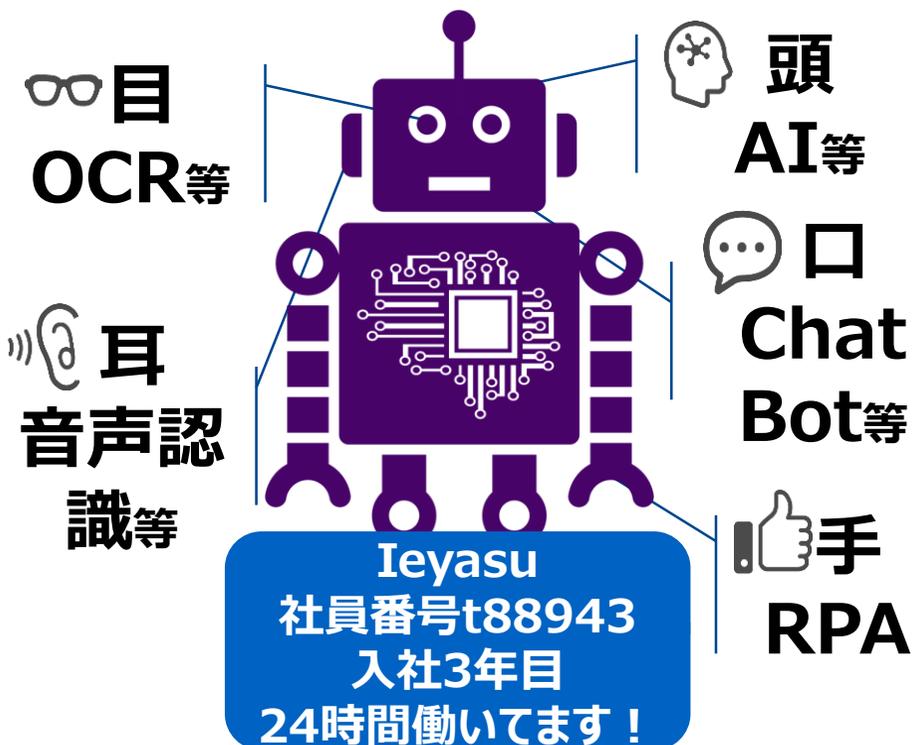
Global CoE強化
本社主導で各Regionに
CoE設立、連携して展開



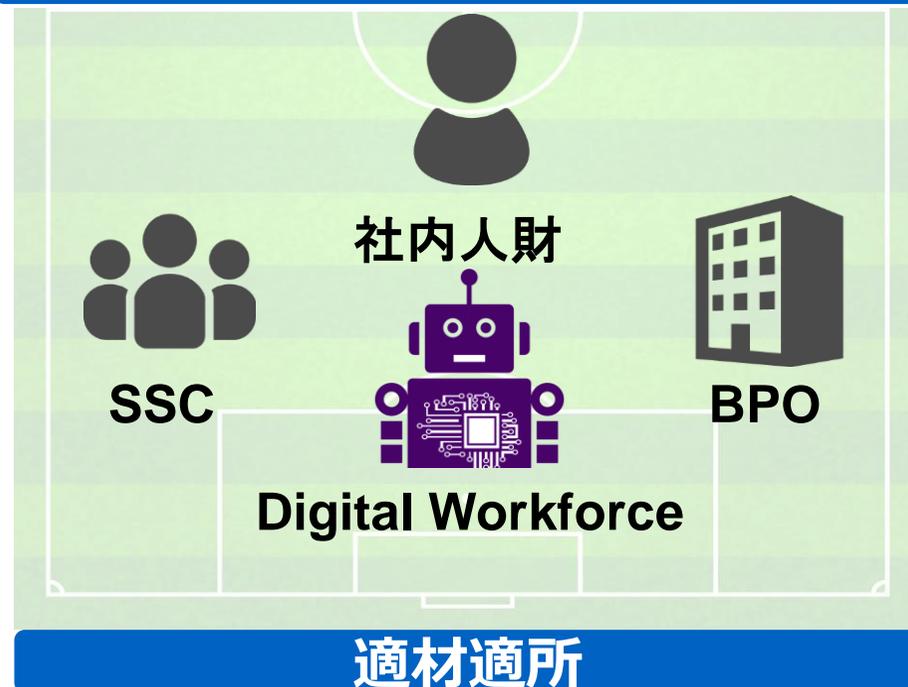
自社実践のアセットで
B2B2PforP事業貢献
サービス事業化



デジタルワークフォースの機能配置

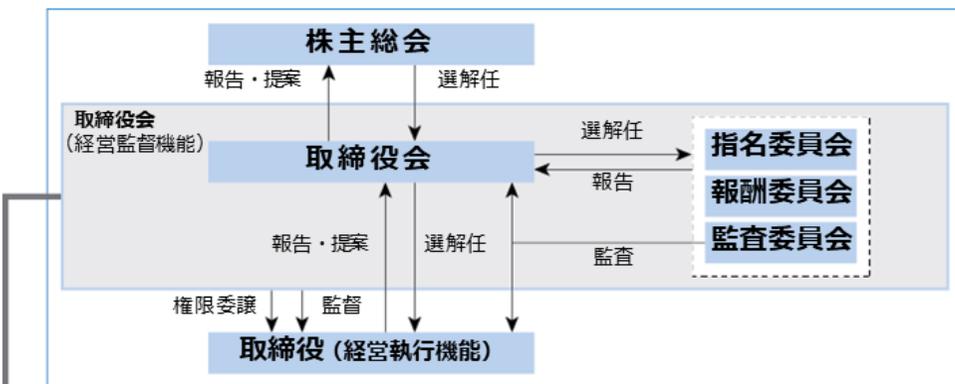


DX実現のためのリソースフォーメーション

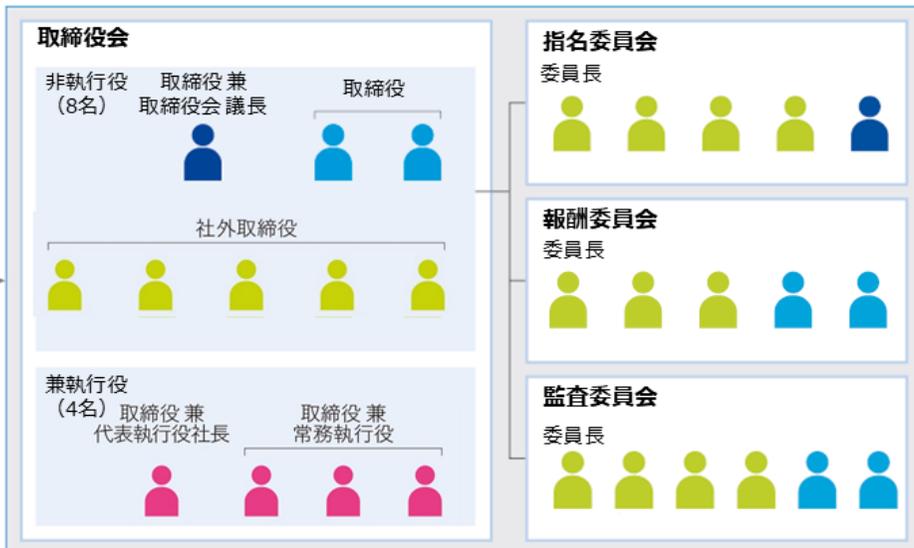


委員会等設置会社として、属人性を排したガバナンスを追求

コーポレートガバナンス体制（2019年6月18日現在）



取締役会と三委員会の構成



氏名	当該社外取締役を選任している理由
能見 公一*	農林中央金庫および株式会社あおぞら銀行において金融業の経営に、また株式会社産業革新機構において、投資活動を通じた新規事業の育成、および企業の自己変革の支援などの業務に携わってこられました。企業経営者としての豊富な経験と幅広い識見を有しており、引き続きガバナンスの維持・強化に貢献していただけるものと考えています。
八丁地 隆*	株式会社日立製作所において、グローバル経営、事業転換の推進など総合電機メーカーの経営に長年にわたり携わってこられました。企業経営者としての豊富な経験と幅広い識見を有しており、引き続きガバナンスの維持・強化に貢献していただけるものと考えています。
藤原 健嗣*	化学・繊維から電子材料・医薬品・住宅へと多角化した旭化成株式会社において、M&Aを活用して事業を育成するなど、総合化学メーカーの経営に長年にわたり携わってこられました。企業経営者として豊富な経験と幅広い識見を有しており、ガバナンスの維持・強化に貢献いただけるものと考えています。
程 近智*	アクセンチュア株式会社において、経営コンサルティングおよびITサービスを提供する企業の経営に長年にわたり携わってこられました。企業経営者として豊富な経験とデジタルビジネスに関する幅広い識見を有しており、ガバナンスの維持・強化に貢献いただけるものと考えています。
橘・フクシマ・咲江*	コーン・フェリー・インターナショナル株式会社の米国本社取締役をはじめ、同社日本法人のトップとして長年にわたり経営に携わってこられました。また、多くの日本企業の社外取締役を務められました。経営者として豊富な経験、人財マネジメントに関する豊富な経験・知見に加え、コーポレートガバナンスに関する幅広い識見を有しており、ガバナンスの維持・強化に貢献いただけるものと考えています。

NIKKEI Smart Work

大賞2018 大賞

コニカミノルタグループの取り組み

1. イノベーションを生み出す人財※活用
2. 持続的ビジネス成長のためのイノベーション
3. 新たな価値の提供による市場開拓
4. ESGでも存在感を示す経営基盤

※コニカミノルタでは「人は財産である」という思いから人「財」としていません

「日経 Smart Work 大賞 2018」とは

日本経済新聞社が2017年に始めて実施した「第1回 日経 Smart Work 経営調査」の結果に基づき、外部審査委員会が総合的に審査して、次世代をけん引するエクセレント・カンパニーとして選出したものです

第1回目は602社が調査に参加し、大賞1社、審査委員特別賞3社、人材活用力部門、イノベーション力部門、市場開拓力部門、テクノロジー活用部門各1社が選ばれました

国内外の著名な投資指標への組み込み

Dow Jones Sustainability World Index
の構成銘柄に8年連続で採用



FTSE4Good Index Seriesの構成銘柄
に16年連続で採用



ISS-oekom(イーコム)社のESG格付
でトップクラスの「Prime」に8年
連続で認定



国際的なサステナビリティ格付機関からの評価

RobecoSAM社の格付において2年連続
で「ゴールドクラス」に選定



EcoVadis社によるサステナビリティ調査
において3年連続で「ゴールド」評価



Corporate Knights社が発表する
「世界で最も持続可能な100社」に選出



日本における評価

第22回「環境経営度調査」
製造業総合ランキング

1位

日本経済新聞社

第10回「企業の品質経営度調査」
総合ランキング

1位

一般財団法人日本科学技術連盟

「健康経営銘柄」に
2年連続4度目の選定



- 第1回 日経SDGs経営大賞を受賞 (今年より新設された賞)
- 企業の **経済価値**、**社会価値**、**環境価値**、の3つの柱に **ガバナンス** を加えた4項目で評価



介護施設向けソリューション



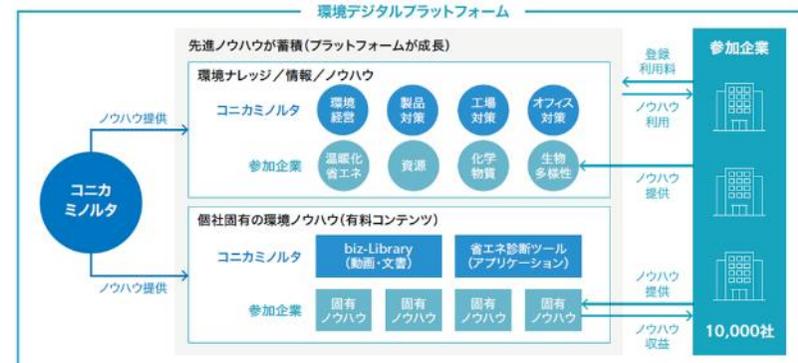
グリーンサプライヤ活動



遠隔診断



環境デジタルプラットフォーム





KONICA MINOLTA